

## 平成28年度 学校評価実施報告書

学校名( 小栗栖中学校 )

## 1 1回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 自校の取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・各種指標
確かな学力	授業改善	・「めあて」と「ふりかえり」の徹底 ・コミュニケーション力の向上を目指した授業展開	・授業において「めあて」の提示ができているか ・授業において「ふりかえり」の時間が設定できているか ・生徒のコミュニケーション活動を考えた授業展開ができているか
	家庭学習の習慣化	・平日課題の実施 ・週末課題の実施	・平日課題はしっかりと取り組んでいるか ・週末課題はしっかりと取り組んでいるか
	基礎学力の定着	・学力向上に向けた取組の実践	・基礎学力は定着していますか
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	・学校や社会のルール遵守の態度の育成	・学校や社会のルールが守れているか ・交通ルールを守れているか
	道徳教育の充実	・副読本の活用による道徳授業の展開 ・全教員による道徳授業の担当	・副読本は十分に活用できているか ・人権意識が向上しているか
健やかな体	自他を大切にする態度の育成	・基本的生活習慣の確立に向けた指導	・規則正しい生活はできていますか
	健康教育の推進	・自己の健康を保持しようとする態度の育成 ・心の健康に関する意識	・自分で健康を維持しようとしているか ・先生に相談できるか
独自の項目	小中一貫教育の推進	・小中合同研修会の実施 ・教科授業連携活動の実施 ・オープンスクールの実施	・小中連携を意識した活動を行っているか



・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成28年7月11日
	評価者・組織	管理職
アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
・「めあて」の提示…91% ・「ふりかえり」の確保…65% ・コミュニケーション活動を意識した授業…78%	・「めあて」「ふりかえり」共に意識の定着はあるが、「ふりかえり」については、時間の確保が課題である。 ・家庭学習課題の習慣化については、小学校との継続的な取組ということもあり、かなり定着度が上がっている。 ・昨年と同様に約10%程度の意識の差が生徒と保護者間にある。生徒の中には基礎学力について理解していない生徒もいる。	・一単位時間の授業の流れを十分に考えた実践が必要であるとともにふりかえり方についての研究も必要である。 ・課題内容の吟味とともに、平日放課後の学習会の開催なども通じて授業とリンクしたものにしていくことも重要であると考えらる。 ・生徒個々の目的意識や額面における具体的な目標を明確にしていけるような指導を授業の中で行っていくことも有効であると考えらる。
・取組めている生徒…79% ・学習課題の実践…74%	・取組めている生徒…79% ・学習課題の実践…74%	・取組めている生徒…79% ・学習課題の実践…74%
・ついているとの回答生徒…63% ・ついているとの回答保護者…53%	・ルールを守らせている教職員…73% ・ルールを守っている生徒…80% ・ルールを守らせている保護者…66% ・人権意識向上の取組…71% ・人権を大切にしようとしている生徒…78%	・ルールについては保護者の指導力の低下が同われる。一方で生徒は遵守意識が比較的高い。 ・道徳授業における副読本の活用については全学年においてできている。 ・現状において遅刻生徒や安易な事由での欠席も多く感じることから保護者に向けての啓発も粘り強く行っていくことが必要である。 ・全教員が授業に関わっていけるような体制作りをさらにすすめていくことが大切である。
・できていると回答生徒…65% ・させていると回答保護者…56%	・困りごとは先生に相談できる生徒…52%	・教育相談などの機会を通じて些細なことも見逃さずに丁寧に生徒と接していける雰囲気づくりをすすめていく。
・連携の意識を持つ教職員…46%	・小中一貫という意識についてはまだまだ高いとはいえない状況にある。	・今後も連携活動をすすめていき、9年間での学びと育ちを保証していけるようリードしていかなければならない。



学校関係者評価	
評価日	平成28年7月20日
評価者 (いずれかに○)	学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
・生徒の学力向上には保護者の意識の向上も必要であるが先生方の力量の向上が何より大切なことである。	・学校に対しての人的なサポートについてはなかなかできにくい状況もあるが、できることはしていきたいと考える。
・生徒自身よりも保護者の意識を変えていくことが大切である。特にSNS関係のトラブルについては、家庭での指導が進んでいくことが強く望まれる。	・地域の活動においても生徒たちの心を大切にしていける大人が増えていこう心掛け、安心・安全なまちづくりをめざしたい。
・これまで通りに地域のスポーツイベントへの参加を通して生徒の健康の向上の一助としたい。	特になし。
地域の子どもという意識は大いに持っている。その中で中学生が小学生をリードしていけるよう指導をお願いしたい。	地域行事への協力を通して小中学校との連携を図っていきたい。

# 平成28年度 学校評価実施報告書

## 2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(1回目評価を踏まえた)年度末までの取組	(取組結果を検証する)アンケート項目・各種指標
確かな学力	授業改善	・教科目標の達成に向けた取組実践 ・指導方法の工夫と改善	・授業研究を積極的に行っているか ・指導方法の工夫と改善を行っているか
	家庭学習の習慣化	・平日課題の実施 ・週末課題の実施	・学習課題はしっかりと取り組んでいるか
	基礎学力の定着	・学力向上に向けた取組の実践	・基礎学力は定着していますか
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	・学校や社会のルール遵守の態度の育成	・学校のルールが守れているか
	道徳教育の充実	・副読本の活用による道徳授業の展開 ・全教員による道徳授業の担当	・道徳授業は積極的に行えたか
健やかな体	自他を大切に する態度の育成	・基本的生活習慣の確立に向けた指導	・規則正しい生活はできていますか
	健康教育の推進	・自己の健康を保持しようとする態度の育成 ・心の健康に関する意識	・自分で健康を維持しようとしていますか
独自の項目	小中一貫教育の推進	・小中合同研修会の実施 ・教科授業連携活動の実施 ・オープンスクールの実施	・小中連携を意識した活動を行っているか



・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成29年1月18日
	評価者・組織	管理職
アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
・教科目標が達成できているか…31% ・指導方法の工夫をしているか…59%	教科目標の達成については低い状況にある。	教科目標は下げることなく、多角的なアプローチによる教科実践を展開していく必要がある。
・学習課題に取り組んでいるか…72%	家庭学習課題については、小学校からの流れを意識できている生徒も多く、抵抗感も少ない。	できていない生徒の固定化に対する手立てについて放課後の時間の活用を継続して展開していく必要がある。
・基礎学力が身についている(生徒)…61%、(保護者)…51%	各調査結果から、平均と大きく差がある学年もあるものの上の学年では着実な伸びが見られる。	次年度を見越して学力対策をさらにすすめていく。
・学校のルールが守れている(生徒)…78%、(保護者)…90%	校内生徒においてはルールは守れているものの、放課後地域での迷惑行為などがあらわれるようになってきている。	細かな部分での指導の積み重ねを地道に継続していく。
・積極的に道徳授業が行えたか…45%	担任だけではなく学年道徳やローテーション道徳もできた。	視覚教材に頼る傾向もあるため、読み物教材による指導もしっかりと行っていく。
・時間を守って過ごせている(生徒)…67%	家庭の協力の度合いによって生徒の生活実態に差が出てきている。特に冬場は生活習慣が崩れる傾向がある。	生徒の意識を高めてくことが一番の解決につながる。のでさらに意識化できるように働きかけていく。
・睡眠時間は十分に取れている(生徒)…60% ・毎日朝食を食べている(生徒)…81%	学年が上がるごとに不登校傾向生徒が増加しており、歯止めがかからない。	コミュニケーション力や自己表現力を高める取組が必要な生徒が増えているが、現実的には取組が難しい。
資料なし	昨年度以上に小中の教員間のコミュニケーションは図れてきている。	個々の困りを共有しながらよい事例のある学校での研修もできればいいと考える。



学校関係者評価	
評価日	平成29年1月24日
評価者 (いずれかに○)	学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
各家庭の環境に大きな差があり、全体としての学力の底上げには相当な取組が必要である。さらに次年度では厳しい学力実態が予測されるため、学校としてできる限りのことを取り組んでいかなければならない。	やはり人的なサポートについては地域の中からは難しい現状がある。
放課後の過ごし方において地域に迷惑をかける生徒が増えてきていることについては認識しており、登校している時にしっかりと話込みを行っている。	注意できない状況もあるので学校に連絡することしかできない。必要に応じては関係機関の協力を得ることも有効である。
生活習慣については、確立してきている生徒が多くなっている。	子どもたちの健やかな成長のために見守り活動を行い、必要に応じて注意もする。
児童数の減少により、取組に支障が出ることも懸念される。	特になし。

## 3 総括・次年度の課題

- ・授業時間帯については、比較的落ち着いた状況で学校生活が進んでいる。しかし、放課後の時間帯においては、一部生徒による地域への迷惑行為(マナー・モラル)などが聞かれるようになってきている。
- ・小中連携活動においては、ゆっくりではあるが着実にすすめられてきている。児童数の減少などによる組織力の低下に対する方策を定期的な会合において協議していく必要がある。
- ・地域のコミュニティー力が課題となる中、見守り活動や交通安全対策、さらには地域パトロールなどでお世話いただいております。感謝している。